

米国は、世界を型に嵌めようとする行動を止めよ（国際論壇）

鐘声

20111128 05:25 ソース：人民網（人民日報）

世界が多極化することは、安定化に向かうのだろうか又は不安定化を増すのだろうか？

これは、21 世紀の国際関係における大きな問題である。国際的にホットな話題を通じてみると、この大問題に対して異なる見方があることが分かる。

ミサイル防衛問題における米露の争いは、新たな一例である。ロシア側は、ミサイル防衛に関する対話において、“米国は、明確な法律的裏付けをもってロシアの安全を保障しなければならない”と主張する。これは過大な要求ではないにもかかわらず、米国が承諾する意志がないのは明らかだ。

米国は、ロシアの政治体制、価値観及び改革路線に対して、多くの疑問を感じ、ロシアは多くの方面で“後退”すると考えている。しかし、西側と異なる文化と伝統を持つ国家は、西側のやり方に従ってやって行けるだろうか？この方面でロシアは教訓を得た。ロシアは、歴史、文化及び伝統、並びに国家の“品格”に対する自信に基づいて発展計画を実行し、各種の現実問題を処理する際に、ますます生来の“個性”を発揮するようになった。ミサイル防衛システムの始動、運用、部署等は、全て米国及びその同盟国の“不安感”と連動している。

かつて、安心感の喪失は冷戦の重要な要因となり、米国及びソ連を首領とする 2 大集団は、強大な核兵器をもって脆弱な“恐怖のバランス”を保った。冷戦終結後、世界の枠組は、多極化に向かっているが、米国は不安になっている。テロの脅威など現実的要因だけでなく、この種の不安感は、大部分自分自身に対する絶対優勢の地位の追及及び世界各国の政治体制や発展路線の一元化に対する執着に原因がある。”ある国家を根本的に改変することによってのみ、米国に対する敵視と脅威を根絶することが出来る”との考え方は、近年来、特に対テロ方面の米国の外交政策に現れており、米国政治の信頼性に対し損失を与え、地域情勢に衝撃を与えている。これは衆目が認めるところである。

1944 年 12 月、米国の「シガゴ・トリビューン」紙は重要社説を発表した。その後一部の米国学者は、この記事を用いて冷戦発生の原因を解明した。この社説の核心となる観点は、次の通りである。”米国は、世界改造を請け負い、世界をさらに良くする歴史的責任を持つ。そして米国の”力と疑いのない意志は、

がっちりと手を結んだ” と。

今日の世界は、冷戦前夜とは異なる。新興大国の勃興は、世界の枠組を多極化に向かわせる重要な力になった。彼らは、西側国のようには成長しないかもしれない。また一部の問題では西側を不愉快にするかもしれない。しかし彼らは、西側国との経済貿易など各領域での交流を行って共同发展を推進するはずだ。世界の平和と繁栄は、これらの国家が米国のような国に変わることによって達成されるのではなく、彼らが自国の国情に従った路線を末長く歩むことによって達成されるのだ。

多極化した世界の枠組は、各国に広く受け入れられる認知の枠組が必要である。その前提となるのは、相互尊重、包容力のある協力であり、あらゆる手段を講じて” 仮想敵” を作ることもなければ、世界を” 型に嵌めようとする” 行動でもない。

一時的に世界の注目を浴びた” 歴史集結論” は、いい加減な結末にならざるを得ない。これは、歴史の発展規律に根本的に反しているからだ。一方にのみ偏った世界安全保障の枠組を建設すれば、ある意味で” 冷戦” の雰囲気を作成する。

以上